

住宅部会ゼミナール2015

テーマ「豊かで持続可能な住生活のために」

人口減少・少子高齢化等、日本の社会経済情勢は急激な変化を見せています。一方で、住まいに関するニーズは多様化の一途をたどっています。また、今年は、5年ぶりの「住生活基本計画」の見直しの年でもあります。

そのような環境下、住まう人が真に豊かさを実感できる、持続可能な住生活や住まいとはどのようなもののでしょうか。

これまでの日本の住まいのあり方を振り返り、今後の事業展開のための新しい視点や課題共有の場となれば幸いです。

- ・期日 平成27年9月1日(火)
- ・会場 日本消防会館 5階大会議室
(東京都港区虎ノ門2-9-6)
- ・主催 (一社)プレハブ建築協会
住宅部会
- ・スケジュール
 - <第一部> 14:00~14:10 開会挨拶
 - 14:10~15:10 講話
 - <第二部> 15:15~16:45 講演
 - 16:45~16:50 閉会挨拶

第一部 講話

1. 「最近の住宅生産行政の動向」について

国土交通省住宅局住宅生産課 課長

真鍋 純 氏

2. 「ロボット革命」の実現に向けて

経済産業省製造産業局産業機械課ロボット政策室 課長補佐

平田 卓也 氏

第二部 講演

「これからの住宅動向とメーカーの役割」について

首都大学東京 名誉教授

深尾 精一 氏

<深尾 精一氏プロフィール>

- ・昭和24年生まれ
- ・昭和46年6月 東京大学工学部建築学科卒業
- ・昭和51年3月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了
- ・昭和52年10月 東京都立大学(現:首都大学東京)工学部助教授
- ・平成7年4月 東京都立大学(現:首都大学東京)工学部教授
- ・平成25年3月 首都大学東京 名誉教授
- ・平成27年2月 社会資本整備審議会 建築分科会長

専門分野は建築構法計画。研究テーマは、集合住宅の構法に関する研究、外周壁構法に関する研究、建築設計と建築生産における寸法調整に関する研究、建築ストックの活用に関する研究など。

主な受賞に、1996年度日本建築学会作品選奨「実験集合住宅NEXT21の設計」(共働)、1999年度日本建築学会作品選奨「繁柱の家」、2001年度日本建築学会賞論文賞「寸法調整におけるグリッドの機能に関する研究」。主な著書に、『建築構法』(市ヶ谷出版・共著、1981年)、『建築ヴィジュアル辞典』(彰国社・共訳、1998年)、『住まいの構造・構法』(放送大学教育振興会、2004年)。主な作品に、「繁柱の家」、「実験集合住宅NEXT21」(共働)、「武蔵大学科学情報センター」(共働)など。